

千八百石を領せらる、此邊都會の地にして、万の商家ありて賑ふ所なり、勿論江戸よりの奥州街道にして、販食茶店貨食家多し、町中の西の方に宇都宮あり、社殿奇麗にして、詣人多し、此所の生土神とす、

〔飯野八幡社古文書<sup>坤</sup>〕伊賀式部三郎盛光代難波本寂坊軍忠事

右於下野國宇都宮國司家<sup>○顯</sup>勢今年<sup>四</sup>三月五日寄來小山城之處ニ、盛光代本寂馳向<sup>三</sup>下條下河

原、屬于大將軍左馬助殿御手、致合戰軍忠畢、以此條加治五郎次郎、同十郎五郎見知訖畢、依被加御一見、爲備後證目安如件、

〔集古文書<sup>四十二</sup>寄附狀〕等持院尊氏公寄附狀<sup>下野國足利郡鋸阿寺藏</sup>

寄附 足利庄鋸阿寺 下野國中山村事

右爲當寺領所寄附也、守先例可令致沙汰之狀如件、

曆應二年四月十五日

權大納言源<sup>花押</sup>尊氏<sup>○</sup>

〔集古文書<sup>四十四</sup>寄附狀〕結城直朝寄進狀<sup>陸奥國白川郡八槻大善院藏</sup>

下野國茂武大山田村やはら在家 分錢二貫文

右所者、八槻近津大明神寄進申也、狀如件、

永享十一年二月十三日

直朝

〔木曾路名所圖會<sup>五</sup>足利<sup>下野</sup>〕足利の町は山下にあり、東西長し、江戸よりこれまで廿二里、足利

學校東の方にあり、<sup>略</sup>中足利の町を西へ行ば大河あり、渡ら瀬といふ、これ足利の町はづれなり、

下野上野の國界なりとぞ、

〔木曾路名所圖會<sup>五</sup>眞岡<sup>下野</sup>〕小守屋まで貳里八町、此眞岡てふ所は、名にしおふ細き木綿をさ

らし白くして商ふ、桑門などの服に用ゆ、是を眞岡木綿といふ、此所は近隣の村邑の都會の地な